

WEEKLY SIGNAL

平成30年10月12日(金) 1445号

上田八木短資株式会社

来週の市場とレート予想

	10/15(月)	10/16(火)	10/17(水)	10/18(木)	10/19(金)
無担保O/N			△0.086% ~ 0.001%		
銀行券	+ 500	トシ	トシ	△ 1,000	△ 1,000
財政他	+ 80,600	+ 3,000	△ 18,000	+ 3,000	△ 7,000
資金需給	+ 81,100	+ 3,000	△ 18,000	+ 2,000	△ 8,000
主な要因	年金定時払い 国庫短期証券発行・償還(3M) 国債償還(2年)		国債発行(5年)		交付税特会借入・償還 国債発行(20年)
オペ期日	共通担保(全店) △ 1,900 CP等買入 △ 200 補充供給 + 1,300				被災地支援 △ 100
オペスタート	共通担保(全店) + 1,800 国債買入 + 9,300 ETF買入 + 800		CP等買入 + 2,000		
(日本)	鉱工業生産指数(8月確定値)	安倍首相がASEM首脳会議のため 欧州訪問に出発(20日まで)		黒田日銀総裁が定例支店長会議で挨拶 日銀地域経済報告(10月) 貿易統計(9月)	黒田日銀総裁が 全国信用組合大会で挨拶 全国消費者物価指数(9月)
					10/20(土)
					雨宮日銀副総裁が講演(名古屋市)
(海外)	米 小売売上高(9月) 米 企業在庫(8月)	米 鉱工業生産(9月) 米 NAHB住宅市場指数(10月) 米 求人件数(8月)	米 FOMC議事録(9/25・26分) 米 ブレイトFRB理事、講演 米 住宅着工件数(9月) 米 建設許可件数(9月) 欧 欧州新車販売台数(9月) 欧 CPI(9月、改定値)	米 セントルイス連銀総裁、講演 米 クールズFRB副議長、講演 米 景気先行指標総合指数(9月) 米 新規失業保険申請件数 (13日終了週) EU首脳会議(ブリュッセル)	米 グラス連銀総裁、講演 米 アトランタ連銀総裁、講演 米 中古住宅販売件数(9月)

[インターバンク市場]

無担保ターム物	予想レンジ
SPOT 1M	△0.030 ~ 0.050
SPOT 2M	△0.030 ~ 0.070
SPOT 3M	△0.010 ~ 0.070
SPOT 6M	△0.010 ~ 0.100

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、387兆1,800億円から始まった。短国の買入れ等が少額であったことから当座預金残高増減は小幅に止まり、週末は387兆4,400億円を越えた。
無担保コールON物は、積期終盤に入り、幅広い業態からしっかりと調達ニーズがみられ、週を通して堅調な地合いであった。
加重平均金利は9日~11日は△0.05%台前半で底堅く推移した。今積期最後の週末となる12日は調達意欲が一段と高まったことで加重平均金利は△0.042%まで上昇した。ターム物は今積期内エンドとなる1W物ではビッドサイドが厚く△0.01~△0.02%台での出合も散見された。
来週は、国内では、黒田日銀総裁挨拶、日銀地域経済報告(18日)、黒田日銀総裁挨拶、全国CPI(19日)、海外では、FOMC議事録(18日)、米中古住宅販売件数(19日)などが予定されている。

[オープン市場]

CP3M(a-1+)	△0.002 ~ 0.000
TDB 3M	△0.350 ~ △0.250
現先(on/1w)	△0.050 ~ 0.000

<C P>

今週の入札発行総額は約6,000億円で、週間償還総額とほぼ同水準だった。発行市場は、不動産業、ゴム製品などで既発債の償還に合わせた発行が見られた。発行レートは、ディーラーの購入ニーズが強く、マイナスから0%近辺の出合い。週末の発行市場残高は17兆8千億円程度となり、先週末比約1,000億円強の増加となった(先週末残:17兆6,721億円)。11日に、CP等買入オペが予定通り2,000億円で行われた。結果は、按分落札レート△0.004%、平均落札レート△0.001%と前回(按分△0.015%、平均△0.000%)から平均落札レートがわずかながら下落した。
来週の償還総額は、2,300億円程度となっている。大型発行銘柄の期落ちもなく、やや閑散としたマーケットとなるだろう。発行レートは、ディーラーや投資家の購入ニーズが強く、変わらずマイナス~0%近辺での出合いを予想する。

<TDB>

9日に行われた6M788回債入札は、最高落札レート△0.1823%(前回債△0.1502%)、平均落札レート△0.2003%(同△0.1563%)と前回からマイナス幅を大きく拡大。12日入札の3M789回債も最高落札レート△0.2716%(前回債△0.2679%)、平均落札レート△0.2847%(同△0.2943%)と前回から利回りが低下した。前回債に続き、年末越え特有の担保需要や円を有利に調達できる海外からのニーズから特に3M物に買いが集まり、セカンダリー市場では同3M物は△0.32%程度まで低下した。6M物は△0.188%と入札水準での推移となった。
来週は18日に1Y、19日に3Mの入札が予定されている。

<レポ>

銘柄先決めGC取引は週初△0.10%近辺から始まり、週央にかけて△0.115%~△0.125%まで低下。積み最終日となる15日受渡しは、一時△0.14%台まで低下する場面が見られた。SC取引では10年351回債のbidが多く、10日の国債買入オペ後△0.40%近辺の出合いが見られた。5年136回債は、△0.30%台後半~△0.40%台半ばで多く取引された。他2年391・392・393回債、5年134・135・136回債、10年336・337・338・339・340・341・342・343・344・345・346・347・348・349・350・351・352回債、20年163・164・165回債、30年58・59・60回債、40年10・11回債などに引合いが多く見られた。

本資料は投資環境等に関する情報提供を目的として作成したものです。本資料は投資勧誘を目的とするものではありません。有価証券等の取引には、リスクが伴います。投資についての最終決定は、投資家ご自身の判断と責任においてなされるようお願いいたします。当社は、いかなる投資の妥当性についても保証するものではありません。記載された意見や予測等は作成時点のものであり、正確性、完全性を保証するものではなく、今後予告なく変更されることがあります。